

第53回ビブリオシンポジウム 第56回日本細菌学会中部支部総会

開催期間：2019年10月25日 - 26日

開催場所：名古屋大学 ES 総合館 ES ホールおよび会議室

主催者：日本細菌学会中部支部 / ビブリオシンポジウム

共催者：名古屋大学大学院理学研究科

名古屋大学 卓越大学院プログラム

参加人数：111人

【活動報告】

ビブリオシンポジウムは、病原性ビブリオに関する諸問題について研究調査・討議を行い、保健医療、特にこれらの細菌による食中毒発生の阻止を図ることを目的として毎年開催されており、近年は基礎的研究にも対象を広げ、学術の発展に貢献してきた。

今年度は東南アジアやインドのビブリオ感染を中心に発表があり、世界的な感染防御についての議論がされた。日本から派遣されてインドで研究を行っている研究者の参加もあった。また、中国から招聘した浙江大学 Haichun Gao 教授による、ビブリオ菌の近縁種である *Shewanella* 属菌の NO 代謝に関する基礎的な研究の発表が行われた。韓国ソウル大学 Yeong-Jae Seok 教授は、人食いバクテリアと呼ばれる *Vibrio vulnificus* のべん毛運動についての発表を行った。

今回は日本細菌学会中部支部総会と合同で開催し、全体で38件の一般講演と4件の特別講演が行われた。次世代シーケンサーを用いたゲノム解析により日本での研究をリードしている東京大学・岩崎渉先生、また、日本におけるステルス型 CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）の動向について国立感染症研究所・鹿山鎮男先生による招待講演も行われた。中部地区での細菌研究者とビブリオ菌の研究者が集うことにより、普段では得られない情報交換を行うことができ、さらなる研究の発展が期待される。

